自炊団「尚志社」の跡

柴扉（さいひ）暁に出ずれば、
霜雪のごとし、君は川流を汲め、
我は薪を拾はん

明治大正の男子たちが愛唱した漢詩（広瀬淡窓）の一節を彫り添えて、旧制飯田中学の自炊団『尚志社』跡地を偲ぶ碑が、長久寺の北隣にひっそりと建っている。道路からだと細い跡地の奥だから、まるで隠れ里のような場所である。傍には白雪稲荷社がこれもまたひっそりと。

飯田中学校独立に合わせて創立された自治自炊の寄宿舎である。勉学第一のほか春は度胸だめし、秋には五平餅会、夏は夜間遠足と吊り出しなど恒例。炊事当番は芸者さんたちがお稲荷さまに供える油揚げを待ち受けて、そっと失敬拝領したとか。

秀才凡才猛者バンカラなど話題山積の尚志社だったが、昭和46年6月に70年の歴史を閉じた。

懐旧の情にあふれる先輩方によって跡地の片隅に三幅対形式で風格ある碑が設けられた。揮毫は中学11回の文人・眼科医矢高束（行路）先生である。　（文・牧内）